

# 平成30年度 豊田市のわかりやすい財務諸表

## ～どうなっているの!? 豊田市の財産～

あなたは豊田市がどれだけの資産（現金、貯金、土地、道路、公園など）があり、どれだけの負債（未払金、借入金など）を抱えていると思いますか？

豊田市の財産状況やお金の使い方を明らかにした資料が貸借対照表などの財務4表です。これらの資料から何が分かるのか具体的に解説していきます。



### Q1 豊田市の財産状況はどうなっているの？



貸借対照表から財産状況が分かります。この表は、1年間の行政サービス活動を受けて、平成30年度末現在の資産状況を分かるようにした表です。資産Aと負債Bの差額が純資産Cとなります。

### 貸借対照表(BS)

資産合計	<b>A</b> 8,821 億円	負債・純資産合計	8,821 億円
固定資産	8,323 億円	負債合計	<b>B</b> 773 億円
有形固定資産	7,164 億円	固定負債	632 億円
事業用資産	3,170 億円	地方債	416 億円
インフラ資産	3,797 億円	退職手当引当金	197 億円
物品	197 億円	その他	19 億円
無形固定資産	1 億円	流動負債	141 億円
投資その他の資産	1,158 億円	1年内償還予定地方債	93 億円
投資及び出資金	402 億円	賞与等引当金	21 億円
基金	683 億円	預り金等	27 億円
長期貸付金等	73 億円	純資産合計	<b>C</b> 8,048 億円
流動資産	498 億円		
現金預金	159 億円		
基金	331 億円		
未収金等	8 億円		

資産から負債(将来世代の負担)を差し引いた純資産は、現世代までの負担により形成された資産を表します。

### Q2 貸借対照表から分かるポイントは？



- ・資産は8,821 億円 (A) です。市民1人あたり207万円になります。
- ・負債は773 億円 (B) です。市民1人あたり18万円になります。
- ・純資産は8,048 億円 (C) です。市民1人あたり189万円になります。
- ・約7,200 億円の有形固定資産（道路、公園など）を持っていますが、この膨大な資産を維持していくための費用確保が今後の課題となります。

年 度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
住民一人当たり資産	211 万円	209 万円	207 万円
住民一人当たり負債	21 万円	20 万円	18 万円

### Q3 豊田市の行政サービス費用はどれくらい？



1年間で行政サービスの提供にかけた費用と収入を示したものが行政コスト計算書です。行政サービスの費用Dから、サービスの利用料などの経常収益Fを差し引いて、臨時損益を含めたものが純行政コストGとなります。

#### 行政コスト計算書(PL)

経常費用	<b>D</b>	1,673 億円
業務費用		1,037 億円
人件費		314 億円
職員給与費		151 億円
その他		163 億円
物件費等		710 億円
物件費		338 億円
維持補修費		125 億円
減価償却費	<b>E</b>	220 億円
その他		27 億円
その他の業務費用		13 億円
移転費用		636 億円
補助金等		165 億円
その他		471 億円
経常収益	<b>F</b>	96 億円
純経常行政コスト		1,577 億円
臨時損失		6 億円
臨時利益		3 億円
純行政コスト	<b>G</b>	1,580 億円

#### 減価償却費

建物や設備などの価値の「目減り分」を費用としてみなして計上

#### 経常収益

体育施設などの利用料・住民票発行などの行政手数料等

#### 臨時損益

災害復旧にかかる事業費や、資産の除売却による損益

### Q4 行政コスト計算書から分かるポイントは？



- ・福祉や教育など、資産形成につながらない行政サービスの提供にかかったコスト（人・物・その他業務にかかるコストと補助金等の移転支的的なコストを合わせた費用）は1,673億円ですD。
- ・行政サービスの対価である使用料・手数料等の収益は96億円ですF。
- ・上記DからFを差し引いて、臨時損益を含めたものGが1年間にかかった純行政コストで、1,580億円となりました。
- ・「減価償却費」は220億円ですE。言い換えると、過去に取得した資産の価値が1年間で220億円分減ったこととなります。

### Q5 豊田市の行政サービス水準はどうなの？



経常費用に対する経常収益の割合（ $F \div D$ ）が5.7%となっています。これは、行政サービスを受ける当事者がどの程度費用を負担しているかを表しており、豊田市は、負担割合が低いと言えます。

## Q6 豊田市の純資産は増えたの？減ったの？



純資産合計は貸借対照表でも分かりますが、1年間の純資産の変動要因を見るには、純資産変動計算書を使います。豊田市は前年度に比べ純資産が19億円増えています<sup>J</sup>。

### 純資産変動計算書(NW)

本年度期首純資産残高		8,029 億円
純行政コスト(△)	<b>G</b>	-1,580 億円
財源	<b>H</b>	1,592 億円
税金等		1,330 億円
国県等補助金		262 億円
本年度差額		12 億円
固定資産等の変動(固定資産等形成分) ※内部変動 【増額要因の内訳】		
有形固定資産等の増加	<b>I</b>	156 億円
貸付金・基金等の増加		84 億円
【減額要因の内訳】		
有形固定資産等の減少		-246 億円
貸付金・基金等の減少		-104 億円
資産評価差額等		7 億円
本年度純資産変動額	<b>J</b>	19 億円
本年度末純資産残高		8,048 億円

## Q7 純資産変動計算書から分かるポイントは？



- ・前のページで見た行政サービスの提供にかかるコスト<sup>G</sup>を、1,592億円の税金や補助金など<sup>H</sup>で補っています。
- ・<sup>I</sup>からは、1年間で道路や公園などの固定資産の形成に156億円を投資したことが分かります。

これまで紹介してきた財務諸表(貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書)は発生主義(資産、負債、純資産の増減、収益や費用の記録を事実に基づいて計上すること。)により作成しています。

発生主義は、減価償却費や各種引当金、未払金、未収金といった見えにくいコストを明示し、将来に備えた費用計上を見込むことが大きな特徴です。

一方で、現金主義(現金収支の事実に基づいて収益や費用を計上すること。)に基づいて作成した財務諸表が資金収支計算書となります。

次ページでは、資金収支計算書を紹介します。



## Q8 1年間でどのように現金が使われたの？



1年間にどのようなお金を得たり、どのようにお金を使ったかを知るためには、資金収支計算書を使います。  
豊田市では、1年間に1,831億円の歳入[K]と、1,782億円の歳出[L]がありました。

### 資金収支計算書(CF)

本年度期首資金残高		87億円
本年度資金収支額		49億円
【増額要因の内訳】		
税金等収入 国県等補助金収入(業務収入) その他業務収入等 国県等補助金収入(投資活動) 資産売却収入 その他投資活動収入等 地方債発行収入	業務活動収入 1,674億円  投資活動収入 114億円  財務活動収入 43億円	1,330億円 248億円 96億円 14億円 3億円 97億円 43億円
<b>K</b> <b>1,831億円</b>		
【減額要因の内訳】		
人件費支出 物件費支出 支払利息 補助金等支出 社会保障給付支出 その他業務活動支出 公共施設等整備費支出 基金積立金支出 その他投資活動支出 地方債償還支出	業務活動支出 1,448億円  投資活動支出 214億円  財務活動支出 120億円	307億円 493億円 4億円 165億円 281億円 198億円 136億円 63億円 15億円 120億円
<b>L</b> <b>1,782億円</b>		
本年度末資金残高		136億円
本年度末現金預金残高(歳計外現金含む)		159億円

#### 業務活動収支

人・物・補助金等の経常的な行政サービス提供にかかる現金収入・支出

#### 投資活動収支

固定資産の整備や基金等の増減等にかかる現金収入・支出

#### 財務活動収支

地方債等の外部からの資金とその返済にかかる現金収入・支出

## Q9 資金収支計算書から分かるポイントは？



- ・業務活動収支(業務活動収入－業務活動支出※支払利息除く)と投資活動収支(投資活動収入－投資活動支出)を合計した基礎的財政収支は、130億円の黒字です。この収支は、行政サービスに必要な費用を借入金等に頼らず賄えているかを表します。一般的に数値が黒字であれば、当該年度の経費を当該年度の収入で賄ったと判断できます。
- ・財務活動収支(財務活動収入－財務活動支出)は、77億円のマイナスとなっていますが、これは、銀行等からのお金の借入額よりも返済額(元金と利息)の方が上回っていることを意味します。

## Q10 4つの財務諸表から何が読み取れるの？



最後に、財務諸表から導き出せる指標について解説します。豊田市の財政状況がどのような方向に向かっているかが分かります。豊田市は、平成28年度から統一的な基準で算出しています。

### ◆将来世代に残る資産はどれくらいあるの？

#### (1)有形固定資産減価償却率【減価償却累計／(有形固定資産－土地等＋減価償却累計)】

耐用年数に対して、資産の取得からどの程度経過しているのかを全体として把握することができます。

平成28年度	平成29年度	平成30年度
52.4%	54.0%	55.4%

### ◆将来世代と負担は分担されているの？

#### (2)純資産比率【純資産合計／資産合計】

純資産比率はこれまでの世代と将来世代との間の負担割合を見る指標です。純資産比率の減少は、将来世代に負担が先送りされたことを意味します。豊田市は高い割合を維持しており、将来世代への負担の先送りが少ないと言えます。

平成28年度	平成29年度	平成30年度
89.8%	90.5%	91.2%

### ◆どれくらい借金があるの？

#### (3)流動比率【(資金＋財政調整基金)／流動負債】

短期的な債務である流動負債（1年以内に銀行等に返す必要があるお金等）を返済できるかを判断する指標です。100%を切れば、今後1年間の支払に充てる資金が少なく資金繰りが厳しい状態を示します。豊田市は、ここ数年高い水準を維持しています。

平成28年度	平成29年度	平成30年度
288.9%	248.5%	332.6%

#### (4)基礎的財政収支【業務活動収支（支払利息支出を除く。）＋投資活動収支】

基礎的財政収支（プライマリーバランス）が黒字であれば、将来世代に負担を先送りすることなく、当該年度の経費を当該年度の収入で賄ったと判断できます。豊田市はこの数値が黒字で推移しており、健全な財政運営を維持していると言えます。

平成28年度	平成29年度	平成30年度
104億6,221万円	63億1,297万円	130億509万円

#### (5)財務的収支【財務活動収入－財務活動支出】

地方債（借入金）などの発行収入と元利償還金支出（借入金の元金）の収支を表す財務的収支は、地方債残高が増えているのか減っているのかを示します。豊田市は、ここ数年は借入額よりも返済額が上回っています。

平成28年度	平成29年度	平成30年度
△83億4,132万円	△60億8,401万円	△77億1,743万円

### (6) 債務償還可能年数 【(将来負担額－充当可能基金残高) / 業務活動収支】

借入金を経常的に確保できる資金（市税や行政サービスの対価である使用料・手数料等）で返済した場合に何年で返済できるかを表します。この数値で、債務返済能力を測ることができます。豊田市は税金が多く業務活動収支額が大きいいため、年数が短いと言えます。

平成28年度	平成29年度	平成30年度
0.6年	1.3年	0.2年

### ◆資産形成する余裕はどのくらいあるの？

#### (7) 資産更新準備率 【(資金＋基金・積立金) / 減価償却累計額】

減価償却累計額のうち、どれだけの割合を資金等として持ち合わせているか見る指標です。数値が大きいほど、将来に備えた資産更新準備ができてしていると判断できます。豊田市は、非金融資産（道路や公園）が多いため、その維持のために資金準備が必要となります。

平成28年度	平成29年度	平成30年度
22.1%	20.1%	20.5%

### ◆費用はどれくらい税金で賄われているの？

#### (8) 受益者負担比率 【経常収益合計 / 経常費用合計】

行政サービスを受ける当事者がどの程度費用を負担しているかを示します。受益者負担比率が低いと、少ない負担で行政サービスを受けられることを意味しますが、豊田市は、低い値で推移しています。

平成28年度	平成29年度	平成30年度
6.0%	5.8%	5.7%

## Q11 人口規模が同じ自治体と比較すると？



では、実際に人口規模が同規模（約40万人）の他市と比較してみます。主な指標について以下の表にまとめましたので、参考にしてください。

	平成30年度決算 普通会計ベース 豊田市	平成30年度決算 普通会計ベース A市	平成30年度決算 普通会計ベース B市
市民一人あたりの資産	207万円	141万円	128万円
市民一人あたりの負債	18万円	39万円	33万円
純資産比率	91.2%	72.6%	74.3%
受益者負担比率	5.7%	9.9%	4.9%
基礎的財政収支	130億509万円	2億4,631万円	△16億7,455万円